

高橋・高人

Keywords : 認知行動療法、子ども、メンタルヘルス、教育

◆研究概要等

臨床心理学の分野で心と行動を科学的・実証的に研究しています。なかでも子ども、学校/教育における認知行動療法の研究と実践を行なっています。学校現場において認知行動療法を用いた問題行動、ストレス反応、抑うつ改善を目的とした実践や、子どもレジリエンスに着目し、逆境や困難に対して柔軟に適応し、乗り越えていく力について研究しています。さらに、子どもの不安症に対する認知行動療法を研究しています。不安症のリスクのある子どもとその家族を対象にして早期介入の効果を検証しています。その他にも、スクールワイドPositive Behavior Support, いじめ未然防止、発達障害の子どもへの支援、学級風土などについても研究しています。

心理系専攻

高橋研究室

准教授

たかはしかひと

高橋高人

ttakahito@socio.kindai.ac.jp

写真



<https://researchmap.jp/7037457-psychology>

■研究テーマ等

1. 教育分野における認知行動療法研究

子どもと教育分野における認知行動療法を中心とした実践・調査研究を行っています。学校現場において認知行動療法を用いた問題行動、ストレス反応、抑うつ改善、そして、ストレスコーピング、社会的スキル、自動思考、問題解決スキルへの介入効果を検証してきました。また、縦断調査研究によるメンタルヘルスと認知行動的要因、レジリエンスとの関連を検討し、介入・予防につながる実証的データを収集しています。

2. 子どもの不安症に対する認知行動療法研究

子どもの不安症に対する認知行動療法研究に取り組んでいます。とくにリスクを持つ子ども4-5歳とその保護者を対象に認知行動療法を行い、5年間のフォローアップ測定から有効性を確認しています。現在は、次の段階として、無作為化比較試験をスタートさせています。また、オックスフォード大学 C. Creswell教授らの研究グループと共同研究を行っており、子どもの不安症に関する国際的な共同研究を継続しています。

●論文・作品・表彰・特許等

1. Takahito Takahashi, Tessa Reardon, Cathy Creswell. (2026) Do parental factors mediate the association between child anxiety and life interference among young children? Journal of Behavioral and Cognitive Therapy. <https://doi.org/10.1016/j.jbct.2026.100580>
2. Sho Okawa, Ronald M. Rapee, Takaahito Takahashi, Tessa Reardon, Honami Arai, Eiji Shimizu, Cathy Creswell. (2024) Psychometric Properties of the Japanese Translation of the Parent Overprotection Measure for Mother and Father Reports. <https://doi.org/10.1007/s10578-024-01753-8>
3. Takahito Takahashi, Shin-ichi Ishikawa, Takahiro Aiboshi, Mai Miyauchi. (2023) Evaluating the long-term effects of cognitive behavioural therapy as an early intervention for at-risk anxiety disorders among preschool children in Asia. Clinical Child Psychology and Psychiatry. <https://doi.org/10.1177/13591045231194104>
4. Shin-ichi Ishikawa, Kohei Kishida, Takahito Takahashi, Hiroko Fujisato, Yuko Urao, Kohei Matsubara, Satoko Sasagawa. (2023) Cultural Adaptation and Implementation of Cognitive-Behavioral Psychosocial Interventions for Anxiety and Depression in Japanese Youth. Clinical Child and Family Psychology Review. <https://doi.org/10.1007/s10567-023-00446-3>
5. Takahito Takahashi, Yoshitake Takebayashi, Kohei Matsubara, Yosuke Inaba, Yohei Kawasaki, Shoji Sato. (2022) Two-Year Longitudinal Study of Children's Cognitive Behavioral Characteristics Associated with Depressive Symptoms. Cognitive Therapy and Research. <https://doi.org/10.1007/s10608-022-10326-9>

▲趣味等

体を動かすこと

◆ゼミの宣伝等

臨床心理学の中でも科学的・実証的に人間の心と行動を捉え、理解し、学ぶことを重視しています。自分の「知りたい！興味ある！おもしろい！不思議だなー」を大切に、自ら問いを設定し、それを探求し、課題解決につなげるゼミ活動をしてほしいと思います。科学的・実証的な心理学を通じた学びは、単に知識と情報を教員から教えられるだけでなく、実社会の課題発見とその解決を共同で行う場です。この課題発見と解決の面白さとやりがいをみなさんと共有したいと思っています。また、ゼミでは学校現場でのボランティアや子どもと接する実践活動を行っています。